公開実用 昭和53— 51242





実用新案登録願 (3000円)

昭和51 年 10 月 5 H 特許庁長官 片山石

ロールカセツト

筿 オオタク ナカマゴメ

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 HF

(居 所) 株式会社リコ

ナワ ヒロ 出

実用新案登録出願人

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 ſĖ.

14

考案の名称

称 (674) 株式会社リコー 4, 氏 名

代表者 舘 林 三

代理 人

iiir 東京都港区西新橋2丁目32番4号 Œ

〒105 電話(433)4564番 梶工業ビル

Æ ۲'n 弁理士 (6313) 伊 武





- 1. 考案の名称 ロールカセット
- 2. 実用新案登録請求の範囲

ロール紙を回動可能に支持する軸受装置と、ロール紙の巻きグセを矯正するカール取り装置と、

- ロール紙にプレーキを付加するプレーキ装飽と、
- 一部に給紙コロが圧接する切欠部を有するロール 紙の練出品とを備えてなるロールカセット。
- 3. 考案の詳細な説明

本考案はロール紙を複写装置に供給するための カセツトに関する。

征来ロール紙を使用する複写機ではロール紙を 機械本体内部に収納し給紙する方式が一般的であ つた。しかしこのようなロール紙装填方法は挿入 後、船紙ローラまたは切断機構の近くまで手動で ロール紙を移動させなければならずその操作が煩 雑であつた。またロール感光紙の場合には収免 作業中に感光紙が疲労する等の欠点もあつた。

これに対し上記欠点を除くためロール紙をカセ

公開実用 昭和53- 51242

ット内に収納して給紙する方式も提案されているが、 複写機本体内やカセット内給紙部が複雑になる等の問題点があつた。

本考案はこれら欠点を解消し、ロール紙の補充 およびサイズ交換の容易なロールカセットを提供 することを目的とする。

さらに本考矣の別の目的は、操作性のよいかつ 確実に給紙できるロールカセットを提供すること である。

図示の実施例において本考案をさらに詳細に説明する。第1図は本考案のロールカセット1を装着したときの複写機の側断面図であり、ロールカセットの繰出部2の一部に設けられた切欠部3(第5図)で給紙ローラ対4,4′が圧接している。

第2凶は本考案ロールカセット1の外形を示す ものでカセット本は1aにはカバー5がヒンジ6に ょつて枢着され、さらに練出し部2の補助カバー 7かヒンジ8によつてカバー5に枢着されており、 それぞれ開閉可能となつている。カバー5の側面 には、ロール私のサイズおよび残量確認用の半透 明窓 9 が設けられており、カバー 5 をカセット本体 1 a に対しロック又は解除するピン10がカバー 5 の側面に突出している。半透明窓 9 は感光紙の疲労防止等を考慮すると光透過率 50 多程度の極脂またはカラス等で作成するのが望ましい。

ロールカセット1の側面には軸受装置としてロール紙支持穴11(第5図)が形成され、第3図に示すロール紙12の巻芯部12aに両端より圧入するつは付き軸13が該穴11に嵌入され回転支持されている。軸13にはつまみ14が形成され、該つまみ14を凹すことによりロール紙の先端部をカセット1よりの紙の出口である練出部2へ練出すことができる。

ロールカセット1の中にロール紙12を装填した 状態を示す第4図においてロール紙12はカイドローラ15、カール取りローラ16により案内されカールを除去されなが5繰出部2へと導かれる。

カバー5 にはゴム板17の一端が枢看され、ゴム板17は自重により乂は所要の押圧装置によりロール紙12に常に圧接されロール紙にブレーキ作用を

公開実用 昭和53- 51242

与えている。すなわちゴム板17はプレーキ装置と して作用している。

カール取りローラ16はカセット本体1aに回転可能に支持されており、ガイドローラ15は第 5 図に示すように両端がレバー27に回転可能に支持されている。レバー 27は軸18の両端に夫々固定されてなり、該軸18はカバー 5 に取付けられたプラケット19に回転可能に支持されている。

レバー27にはカバー5をカセット本体1にカバーセットしたときにカセット本体1に設けられた係止ピン20に係止する海21が形成されており、レバー27ははね22により海21が係止ピン20に係合保持する方向への回転力、第5図において反時計方向の力を与えられている。したがつて普通はカバー5にカセット本体1にロックされている。

レバー27にはロック解除ピン10が固定されており、該ロック解除ピン10はカバー 5 の側面に形成された長穴23を賞通突出している。

ロック解除ピン10を図において右方へ押すとレバー27が翻18のまわりを図において反時計方向に

回動されレバー27の帯21が係止ピン20からはずれるのでカバー5のロックが解除されカバー5はヒンジ6のまわりに回動されて開かれることができる。

複写機本体へのカセット1の連結は複写機本体に設けられた位置決め兼支持部材にカセット本体1aに取付けたフック24を引掛けることにより行なわれる。カセット1を複写機本体に連結したときカセットの繰出部2の切欠部3の位置に複写機本体の給紙ローラ対4,4′が位置する。

公開実用 昭和53- 51242

なお、ペーパーの巻グセを矯正するカール取りローラ16は、ローラ状でなくカセット本体内の一部を凸状に隆起させることによつても代用でき、またガイドローラ15を設けなくとも可能であるが、カイドローラ15を設けてロール紙の巻径に関係なくカール取りローラ16への巻付角を一定にした方が安定した巻グセの矯正ができカール取りローラの位置も自由に決められる。

またプレーキ装置について本考案の実施例では ゴム板17をロール紙の上から軽く圧接し逆回転し ないよう取付けてあるがこれに限定されるもので はなく、ゴム板17をスプリング等を用いて側端か 5圧接するように設けることも可能である。

ロール紙12の回転支持をカセットの側面の穴11 で行なう例を示したがこれに限定されず、第6図 に示すようにカセット本体1aに取付けた軸受板25 に軸受解26を設けこの軸受構26によりロール紙を・ 回転支持するようにし、つまみ14のみをカセット 1の側面から突出するようにすれば、遮光効果が 高められることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案のロールカセットを被写機本体にセットしたときの側断面図、第2図は本考案のロールカセットの斜視図、第3図はロール紙およびその軸を示す断面図、第4図は本考案のロールカセット内部を示す断面図、第5図はロールカセットの一部を破断した斜視図、第6図はロールカセットの別の実施例の上面を破断した斜視図である。

1 …ロールカセツト

1a… カセット本体

2 … 練出部

3 … 切欠部

11… 転 受 装 置

12…ロール 紙

13…軸

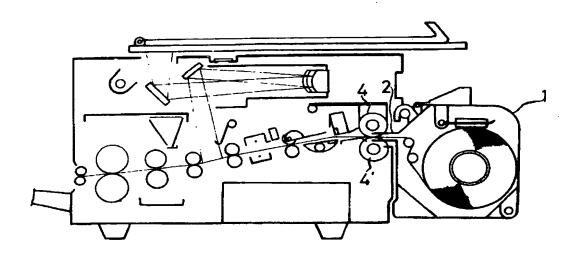
16… カール取りローラ

17…プレーキ装置

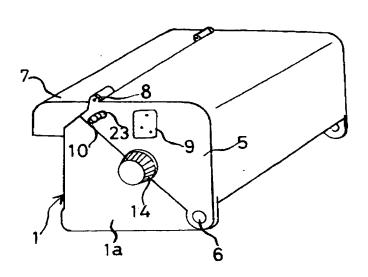
代理人 弁理士 伊藤 武 久

公開実用 昭和53— 51242

第1図

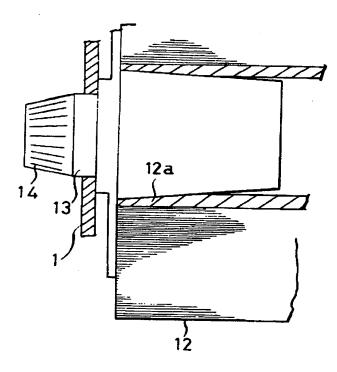


第 2 図

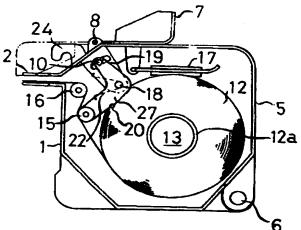


5-74213

第 3 図

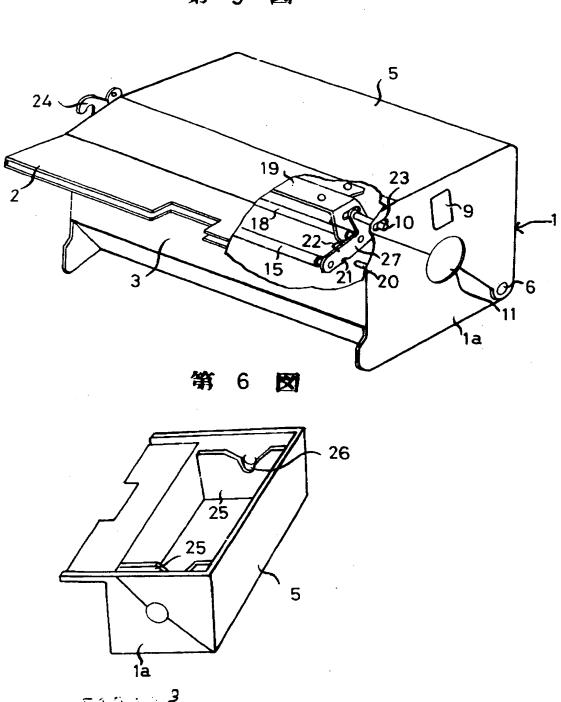


第 4 図



公開実用 昭和53— 51242

第 5 図



添附書類の目録

 問
 細
 書

 図
 面
 1 通

 変
 任
 状
 1 通

 顧
 書
 副
 本
 1 通

 優先権証明書
 0 通

This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
M BLACK BORDERS
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
FADED TEXT OR DRAWING
BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
·

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.